

つどい

第7号

発行日：令和4年8月

こんにちは！野木町交流センター「野木ホフマン館」です。
今回の「つどい第7号」でお届けしますのは、概ね次のとおりです。

- 「野木ホフマン館」の近況・事業
- 野木町煉瓦窯のおはなし その⑦
- 自然豊かな渡良瀬遊水地 その⑥

【ホフマン館の近況と事業】

今年は「煉瓦のオブジェ」の周りの殿堂入りバラと野木町煉瓦窯を囲むフェンスのバラが5月頃から同時に咲き始め、さらにクレマチスなどの色彩豊かな花も咲き誇り、6月には紫陽花が咲き、煉瓦窯とのコラボレーションが見事でした。今後は、毎年この景色が楽しみです。秋にかけても色とりどりの花が見られると思いますので、ご来館をお待ちしています。



- ◆ヨシ焼後の芽吹きを観察する第1回渡良瀬遊水地植物観察会が加藤講師のもと4月22日に行われました。多くの方にご参加いただきありがとうございました。
- ◆耐久性の優れた古材で「木製コンテナ作り」が大沢講師のもと4月24日に行われました。なれない道具を使いながら、オリジナルな作品が見事にできました。



野木町煉瓦窯のおはなし その⑦

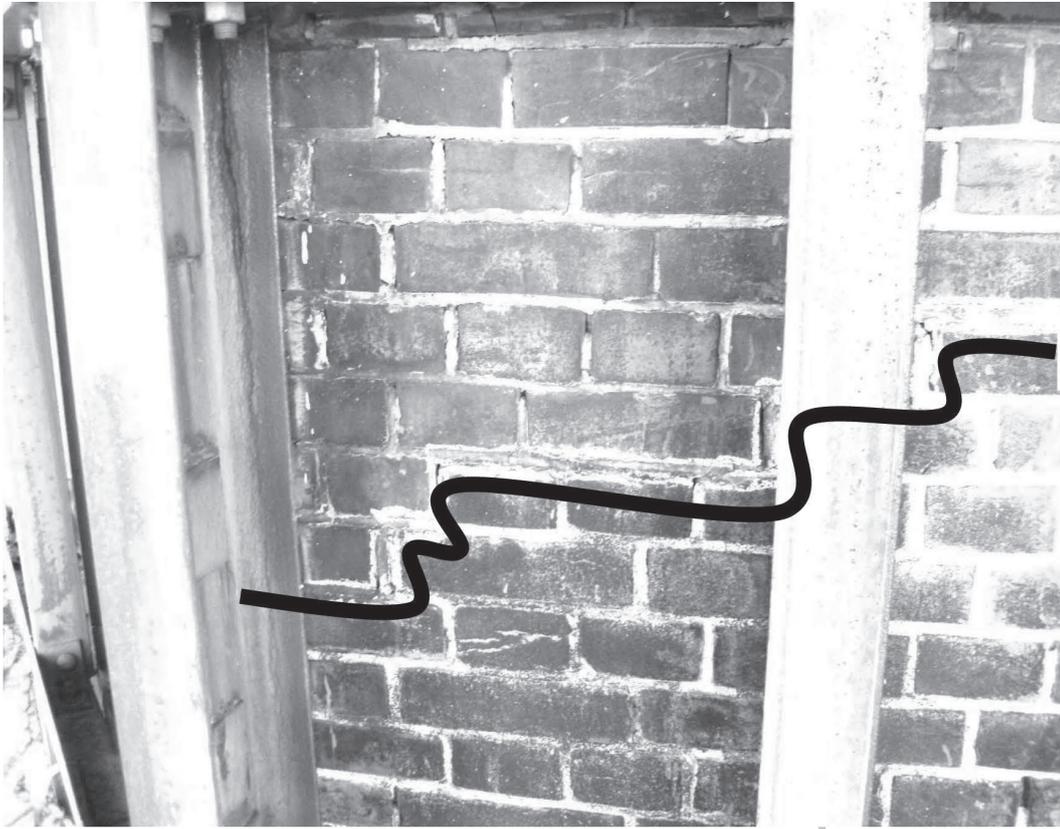
ホフマン館の南側に煉瓦積みのかたまりがあります。これは関東大震災で折れた煉瓦窯の煙突の断片で、野木町が煉瓦窯の修復工事をした際に、窯の中から見つかりました。

現在の煙突の途中から上は、関東大震災直後の修理で積みなおしてあり、地上から34.5メートルの高さがあります。

昭和30年代から40年代にかけて煙突に金具をつける補強がなされ、その後、2011～2014年の野木町による修復工事で新しい鉄骨に付け替えられました。
(つづく)



煉瓦窯の煙突の断片

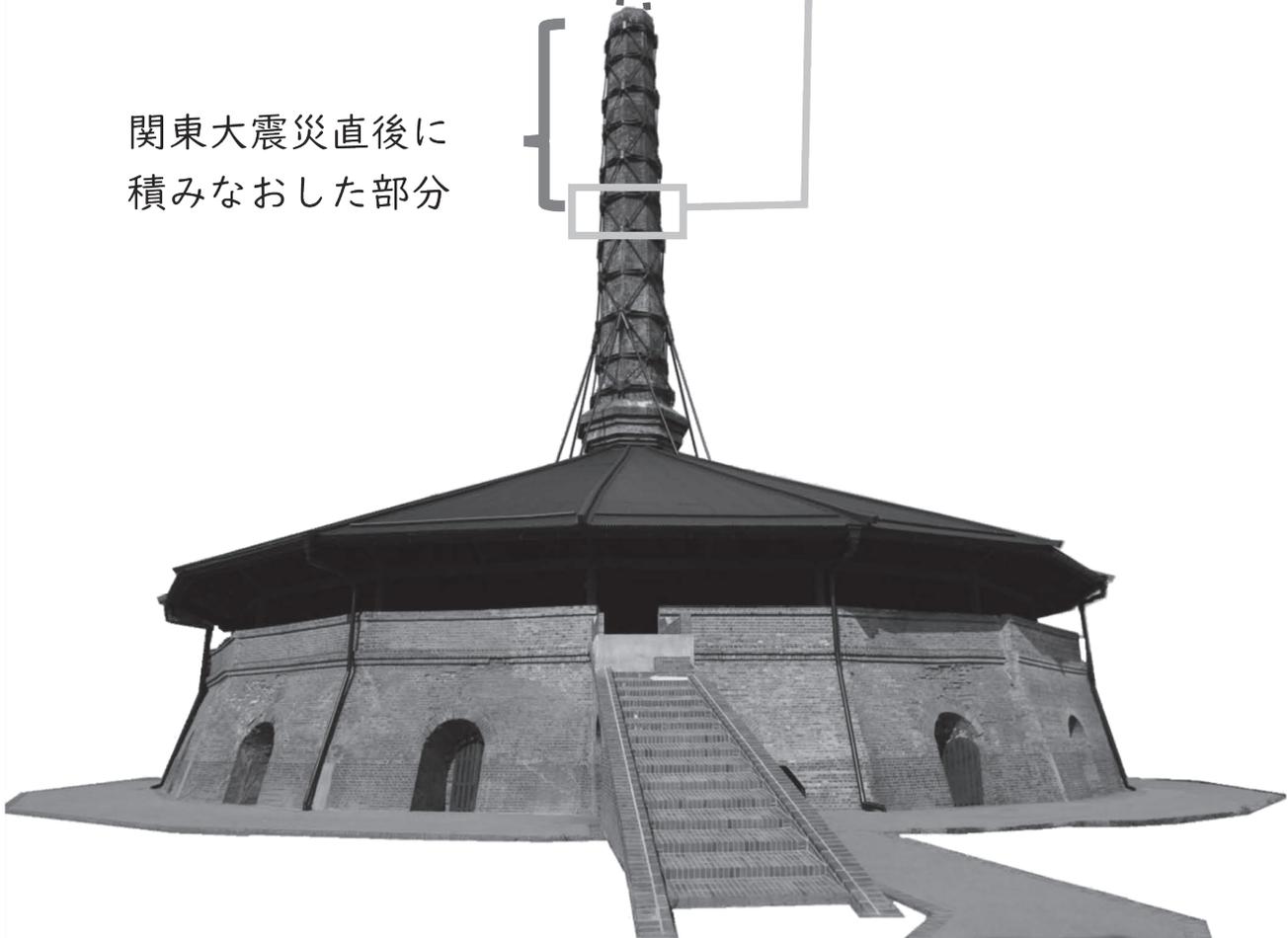


積みなおしの境目

煙突の積みなおし部分

明治23年に建造された当初の煙突は、現在より2m弱ほど高かったようです。

関東大震災直後に積みなおした部分



自然豊かな渡良瀬遊水地 その⑥

渡良瀬遊水地の造成 ～遊水地化事業～

渡良瀬遊水地の洪水調節化計画は、遊水地に流入する渡良瀬川・思川・巴波川の洪水を調節し、利根川の計画高水流量に影響を与えないように遊水地内に第1から第3の3つの調節池を設け、全面積22.8km²、容量は約1億6,200万m³（現在の容量約1億7,180万m³）とするものでありました。主要工事は、囲繞堤と越流堤を4箇所、池内水路、排水門の新設と周囲堤の拡築で、昭和38年度から第1調節池で工事開始、昭和45年度に供用開始、さらに第2調節池を着工し、昭和47年度に供用開始をしました。第3調節池は昭和48年度から着手し、平成9年度に供用開始をし、渡良瀬貯水池（谷中湖）は、平成2年度から供用開始をしました。（つづく）



渡良瀬遊水地の近況

今年は渡良瀬遊水地ラムサール条約登録10周年となりました。各関係団体がこの冠をつけて、事業を進めて行くと思います。各自治体や関係団体が開催するイベント等に参加し、渡良瀬遊水地の豊かな自然の素晴らしさを感じてみませんか。

野木町交流センター

（野木ホフマン館）

開館日：火曜日～日曜日

9：00～18：00

（月曜日が国民の祝日の場合は
開館、翌平日休館）

〒329-0114

野木町大字野木3324-10

☎ 0280-33-6667